

# 令和8(2026)年度 亀山市教育委員会教育長ミッション(7つの柱)

## 1. 「学びの SWITCH」による非認知能力の育成と確かな学力の育成

- 管理職の学校運営マネジメントを向上させ、非認知能力の育成と確かな学力向上を両立させます。
- 亀山市「学びの SWITCH (スイッチ) プラン」を策定・推進し、子どもたちが自律的に問いを立てる探究的な学びを通して、非認知能力の育成と学力向上を図ります。 ※S:主体的な学びへのスイッチ、W:わかる授業へのスイッチ、I: ICT活用へのスイッチ、C:コア・ラーニングへのスイッチ、H:評価の改善へのスイッチ

## 2. 多様性を認め合う人権教育の推進と「こどもまんなか」の学校文化

- 「自分がされて嫌なことは、他人(ひと)にはしない・言わない」という本質を大切にしながら、他者との違いを強みに変える人権教育を推進します。
- 子どもの意見表明権を尊重し、子どもたちと教職員の対話を通じて学校運営や改善に子ども自身が参画する機会を広げます。また、自分の考えを述べる機会をこれまで以上に増やす教育活動を推奨し支援します。
- 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、誰ひとり取り残さない学び(の場)を展開します。

## 3. 「地域を学びの舞台にした教育」による「地域とともにある学校」づくりの推進

- 学校運営協議会での熟議を通じ、地域とともに子どもたちの未来を創造する「地域を学びの舞台にした教育」を展開します。
- 地域教材や地域人材、地域の事業所等を活用した亀山「ふるさとキャリア教育」を充実させ、子どもたちの自己肯定感や自己理解、地域愛を深めるとともに、地域で子どもを育てる文化の醸成に継続して取り組みます。

#### 4. 多機関との協働による「子どもの安全網」の構築

- 福祉・警察・事業所・関係機関との連携を強化し、子育て期の包括的支援体制（多機関協働）を進めます。
- 教福連携のもと、学校・家庭・地域が一体となって、あらゆる困難から子どもたちを守るセーフティネットを構築し、「つながるシート」の利活用を通してきめ細やかな対応に努めます。

#### 5. 生き抜く基盤をつくる健康教育・食育の推進

- 栄養教諭と連携し、中学校給食の充実と「咀嚼（そしゃく）教育」や9年間の食育プログラムの策定・取組を通じて、生涯の健康を支える食習慣につなげる指導を進めます。
- 養護教諭等を中心に、睡眠時間の確保など生活を自ら整える、子どもたちの「自己調整力」（自己マネジメント力）の系統的な指導のあり方を研究させ、健康教育の充実につなげます。

#### 6. 持続可能な「部活動の地域展開」と新たな受け皿づくり

- 令和9年度秋の休日部活動の地域展開を見据え、スポーツ団体や文化団体等との協議・調整を加速させます。
- コーディネーターの配置やスポーツ分野の機能の集約を契機に、モデル事業の拡充や既存の「地域クラブ」との連携、新規地域クラブの創設につながる環境整備等、子どもたちが多様な活動を継続できる環境づくりを進めます。

#### 7. 教職員のウェルビーイングと資質向上

- 「働きがい・働き方・働きやすさ」の3つのWを追求し、教職員が心身ともに健康で情熱を持って教育にあたる環境を整えます。
- 教職員の子どもに伴走する授業力・対応力を磨くとともに、コンプライアンス意識を高め、不適切な言動の撲滅とインテグリティ（真摯さ・誠実さ）の共通理解を図ります。